

「何が始まる？」「何から始める？」

NACISIS-CATへのNCR2018適用開始 に向けての解説会

2024年10月5日 オンライン(ZOOM)

NPO法人大学図書館支援機構

岡田智佳子

1

事前のおことわり

Please understand in advance

- 「何が何だかわからない」という方にわかっていただくことを目的とした解説会です。詳しく深い話はできません。
- NCR2018の研修でもCM・基準の研修でもありません。
- 公式資料、公開情報に基づいた客観的な説明をこころがけますが、私見がないとはいいきれません。
- 2024.10.4時点の情報・状況をもとにお話ししますので、今後、変更が生じる可能性があります。

以上、ご理解いただけますようお願いいたします。

2

参考資料

「NACSIS-CAT・NCR2018適用はじまる：コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会」資料(2024年9月13日開催)

- [日本目録規則2018年版\(NCR2018\)とは？何を変えようとするのか](#)
- [目録情報の基準](#)
- [図書・雑誌](#)
- [典拠と関連](#)
- [NACSIS-CATのNCR2018対応](#) ←システムの話
- [お役立ちツール](#)

3

「そもそも」から始めましょう
何のためのNCR2018適用か？

4

NCR2018を一言でいうと

- FRBRを基盤とした目録規則？
- RDAと相互運用性のある目録規則？
- 30年ぶりに改訂された目録規則？

ここではNCR2018の本質を
「つながる目録」
 として捉えます

5

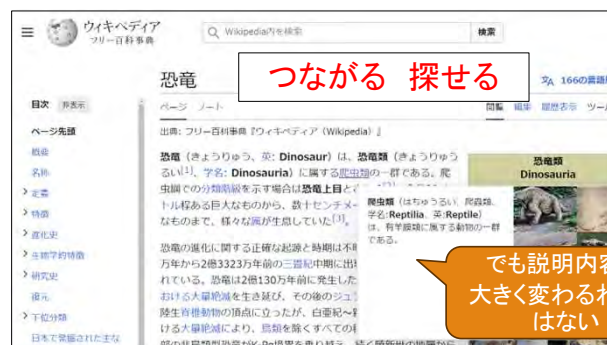
「つながる目録」ってどういうこと？

NCR1987を百科事典(冊子体)にたとえるなら



NCR2018は Wikipedia

私見です



でも説明内容が
大きく変わるわけではない

6

NCR2018適用で何が変わるのか？

ここで拙作

『「NCR2018対応コーディングマニュアル」をもとにしたデータ作成事例』

(<https://www.iaal.jp/files/NCR2018/sample.pdf>)

をご覧ください

どうでしょうか？

NCR2018適用で書誌データの内容は変わりますか？

見た目は「意外と変わらない」

7

NCR2018適用で何が変わるのか？

更に言うなら

「変わる？」「変わらない？」というより

NACISIS-CATのシステムやフォーマット(CATP)が変わらない
以上、そもそも「変わりようがない」

NCR2018適用?! と
身構えなくても大丈夫

8

NCR2018適用しても変わらないのか？

いえ、変わります
何が変わるのか？

目録データの本質と
今後のデータ活用の
可能性が変わる

規則をつくった者としては... (2019)

渡邊先生

NCR2018もRDAも、従来の規則と比べ柔軟性が高く、実装にはさまざまな選択肢があります。海外のOPAC等でRDAによる書誌データを参照できますが、実はAACR2時代と比べ極端な隔たりはありません。

NCR2018の実装方法はこれから各機関で検討されていきます。日本では著作の取り扱いが欧米以上に希薄だったことなどから、変化はより大きくならざるをえない面がありますが、規則の見た目の隔たりほどに、これまでと断絶した形にはならないと思われます。

しかし、あるいはだからこそ、新たな規則の本質をふまえての運用を望みたいと思います。許容されているからといって、これまでと大して変わらない考え方の運用では、やはりこれまでの目録にしかありません。

渡邊隆弘『『日本目録規則2018年版』:つながりをもった目録へ』
『図書館雑誌』113(8), 2019.8, p.509-511.

渡邊隆弘 “日本目録規則2018年版(NCR2018)とは？何を考えようとするのか” NACSIS-CAT CM・目録情報の基準改訂説明会
2024-09-13 https://contents.ni.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_1_watanshs.pdf (参照 2024-10-04)

木下 直 “NACSIS-CATのNCR2018適用について” DXで実現するこれからの大学図書館NACSIS-CAT (学術情報基盤オープンフォーラム2024)2024-06-12 https://www.nii.ac.jp/openforum/upload/20240612_of2024_korekara_3_kinoshita.pdf (参照 2024-10-04)

未来につながる検討

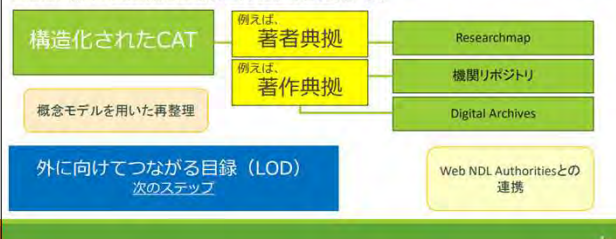
共同利用システムに集約した電子情報資源のメタデータと印刷体のメタデータに加え、デジタル化資料のメタデータを有機的に結合させた統合的なデータベースを構築するとともに、効率的に運用できる次世代 ILL 等を実現する。



これから委員会
目録班の説明

未来につながる検討

共同利用システムに集約した電子情報資源のメタデータと印刷体のメタデータに加え、デジタル化資料のメタデータを有機的に結合させた統合的なデータベースを構築するとともに、効率的に運用できる次世代 ILL 等を実現する。



雑な結論

- NCR2018適用は、NCR1987のカード目録時代との別れを告げるレベルの大変大きな変革
- NCR2018適用しないとその先に進めない重要なもの
- だけど、見た目でその変化はわかりにくい

「何がどうなるか全くわからない」と不安な方は
たいして変わらなさそう大丈夫！
から始めても、当面おそらく問題ありません

11

続いて
NCR2018適用の概要
について

12

NACSIS-CATにおけるNCR2018適用の方針

1. 和洋ともに適用する(RDAを適用しない)
✓コーディングマニュアルの構成が大きく変更
2. まず「適用細則」を決め、それをもとにマニュアル改訂を行う
3. ローカルシステムに影響する変更は行わない(フィールドの追加やCATPの変更等)
✓コードの追加、入力レベルの変更だけ
4. CAT2020の作業方針(VOLばらし/異なる目録規則の許容など)は維持する
✓CAT2020の(正?負?)の流れを継続
5. 適用開始日前の遡及的な変更は行わない

13

1. 和洋ともに適用 コーディングマニュアルの構成変更

- 現(CAT2020対応版)コーディングマニュアル
 - <https://catill.bitbucket.io/CM/mokuji.html>
- 新(NCR2018対応)コーディングマニュアル
 - https://catill.bitbucket.io/CM_new/mokuji.html

※2024年10月31日(木)以降はURL変更

(新規項目)

1.1.3 情報源の記録
4.1.20 LCCN
4.1.21 GPON
5.2 家族名 (全体) など

(大幅変更)

第5章 著者名典拠データ
第11章 典拠データ修正
第51章 適用細則
付録6 入力データ記述文法
など

14

2. 適用細則に基づきマニュアル改訂 適用細則がないと適用できない

マニュアルの関係性

適用細則

NCR2018

書誌データ

本則
別法
任意規定

CATでは何を
選択する？

CATではどう
記録していく？

目録情報の基準
コーディングマニュアル

目録情報の基準 第5版
2020年改訂
国立情報学研究所

日本目録規則
2018年版
2018年改訂
日本図書館協会

日本目録規則
2018年版
2018年改訂
日本図書館協会

NCR2018は別法、任意規定が豊富

→自由度高くカスタマイズ可能
→取捨選択を決めてからでないと利用できない

→→適用前にまず自分たちの「適用細則」を決める

村上暎 “目録情報の基準” (コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会) 2024-09-13
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_2_murakami.pdf (参照 2024-10-04)

15

2. 適用細則に基づきマニュアル改訂 適用細則がないと適用できない

NCR2018①

- NCR2018は無料で見られます。
※冊子体のほうが見やすいけれど（私見ですが）
- 2022年度から、更新事項はPDF版に適宜反映
※ただし、NACSIS-CATへの即時反映はせず、検討した結果必要な修正をNACSIS-CATのマニュアル（目録情報の基準、コーディングマニュアル等）に加え、ニュースレターなどでお知らせします。
- データ作成事例もあります。

日本目録規則 (NCR) 2018年版関連情報

目録情報 / Last Update: 2024.8.27
<http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>

目録規則 (印刷版)

日本目録規則2018年版(2018年12月25日発行) 2018年1月7日PDF版を公開しました。
 2022年3月1日、2024年5月1日に、PDF版の更新を行いました。

- 電子版(PDF) (日本図書館協会, 2018.12.25, 761ページ, 本体価格5,000円) 電子版印刷 電子版印刷
- 印刷版 (2024.5.1更新)

データ作成事例 (2021.12.24 Last Update:2024.3.15)
<http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>
 (2024/8/22閲覧)

NACSIS-CATのマニュアルは、「冊子体」のNCR2018をもとにしている
 →Web版(更新資料)の変化にはすぐに対応できない

村上暎 “目録情報の基準” (コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会) 2024-09-13
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_2_murakami.pdf (参照 2024-10-04)

16

2. 適用細則に基づきマニュアル改訂 データ作成時のマニュアル参照の流れ



17

3. ローカルシステムに影響する変更 は行わない

「準備編」で詳しく説明します

18

4. CAT2020の作業方針維持

- VOL積みの禁止=VOLばらし

NCR2018には「複数巻単行資料」の「包括的記述」という考え方があるが、採用しない

- 異なる目録規則の許容

0.1.2D 《注意事項》

D1

本項に定める通り、データ登録の際には、準拠すべき目録規則に従う。

ただし、図書書誌データにおいては、システム登録や流用入力等、異なる目録規則が適用されている書誌データを利用する場合、この限りではない。

(例)
P175: xiv, 233 pages ; 24 cm
(ISBNに基づいて「pages」と記述されているが、修正は行わない)

国立情報学研究所。“目録システムコーディングマニュアル(CAT2020対応版)”0.1.2D1 https://catill.bitbucket.io/CM/0_1_2.html (参照 2024-10-04)

19

5. 適用開始日前の遡及的な変更は行わない

適用開始日 2024年10月31日

日本目録規則2018年版(NCR2018)に対応したコーディングマニュアルおよび目録情報の基準第6版の適用開始日を、令和6(2024)年10月31日(木)に決定しましたので、お知らせいたします。

国立情報学研究所。“日本目録規則2018年版対応コーディングマニュアル・目録情報の基準第6版の目録所在情報サービスへの適用開始日について”目録所在情報サービス ニュースCAT 2024-07-12 <https://contents.nii.ac.jp/catill/news/cat/2024-07-12-0> (参照 2024-10-04)

8. 第5版以前の扱いについて

2024年10月31日以降、「目録情報の基準」は、この「第6版」を採用する。第5版以前の「基準」は、2024年10月31日以降の総合目録データベースにおけるデータ作成・修正作業に使用してはならない。ただし、第6版適用以前に作成された既存のデータに関して、**遡及的に修正を行わない**。第5版以前の扱いに関する詳細は各項に記載している。

国立情報学研究所。“改訂に当たって”目録情報の基準_第6版 2024-09-09 https://catill.bitbucket.io/KUJUN/new/m6f_2.html (参照 2024-10-04)

20

5. 適用開始日前の遡及的な変更は行わない 2024年10月31日以降の判断の仕方

NCR2018が適用されるか否かはデータの**CRTDT**で判断する

- オリジナルはNCR2018で作成する
- ただし、PREBOOKや参照データには「異なる目録規則の許容*」あり

	CRTDT	
	20241030以前	20241031以後
オリジナル	NCR2018	
BOOK	NCR1987R3/AACR2*	NCR2018
PREBOOK		
SERIAL		
NAME		
TITLE		
参照データ	NCR2018*	

個人名の区切り記号が変わります

10/31以降も全てをNCR2018で記述しなければならないわけではない

21

でもやっぱりよくわからない
何をすれば？ な方向けの
準備について

22

10月30日までにやっておくべきこと システム編

1. システム関連の変化について理解する
参照→ 阪口「NACSIS-CATのNCR2018対応」
(コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会)
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_5_sakaguchi.pdf
2. 自館のシステムの対応状況を確認する
ベンダーに問合せ
3. (10/31までにシステム改修が間に合わなければ)NIIにWebUIP利用の申請
をする

23

1.システム関連の変化について理解する

NCR2018対応のためのNACSIS-CATの改修事項

1. 新規追加コードへの対応
2. 典拠データの識別要素の区切り記号の変更
3. 表現種別・機器種別・キャリア種別への対応

阪口幸治「NACSIS-CATのNCR2018対応」

(コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会)

https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_5_sakaguchi.pdf

24

2. 自館のシステムの対応状況を確認

3. WebUIPの申請

新規追加コードへの対応⑤ 新規コードに未対応の場合

• お使いの図書館システムが、NCR2018に対応しておらず、PUBF等の今回の新規追加コードを書誌に追加する場合や、書誌を修正すると、登録済のPUBFのコードを削除してしまう場合などは、WebUIPの利用申請を行い、WebUIPでNACSIS-CATに登録してください。

• WebUIP利用申請ページ

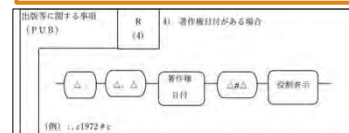
https://contents.nii.ac.jp/catill/application/cat_ill/option/webuiip

阪口幸治 “NACSIS-CATのNCR2018対応” (コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会)
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_5_sakaguchi.pdf (参照 2024-10-04)

特にPUB(グループフィールド)は確認要!

教育用で確認しましょう

- PUBFに「m」以外のコードを登録したらどう見えるか?
- 著作権日付をルール通りに記述して登録したらどう見えるか?



25

10月30日までにやっておくべきこと

データ入力編

1. コーディングマニュアルの新目次に慣れる!
2. NCR2018注記を辞書登録する
3. PUBFのコードの種類と入力方法を(なんとなくでよいので)理解する
4. 情報源のルールが変わったこと(だけでも)を頭に入れる
5. 新たに入力レベルが「必須2」になった項目について理解する
6. 新用語に慣れる!(頻出なのは10個無いです)

26

2. NCR注記

表現種別・機器種別・キャリア種別への対応(1)

●NCR2018対応後は、表現種別・機器種別・キャリア種別を、NCR2018対応のコーディングマニュアルで定めたフォーマットで記載した注記（以下「NCR注記」）を、注記の最初に入力する必要があります。

例：NOTE:表現種別: テキスト (ncrcontent), 機器種別: 機器不用 (ncrmedia), キャリア種別: 冊子 (ncrcarrier)

●NCR2018対応後は、NCR注記は、TRCMARCを含め参照データセットに取り込まれます（一部例外あり）。

表現種別・機器種別・キャリア種別への対応(2)

●NCR注記は、フォーマットのチェックを行いますので、フォーマットが間違っていれば、エラーが表示され、書誌をNACSIS-CATに登録できません。

●エラーが表示された場合、既存の書誌のNCR注記をコピー・流用するなどの対応をお願いします。

●NCR注記は、参照データセットに取り込まれたものをそのまま登録するなど、なるべく手作業で一から入力しないようにしてください。

阪口幸治 “NACSIS-CATのNCR2018対応”（コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会）
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_5_sakaguchi.pdf（参照 2024-10-04）

27

2. NCR注記

NOTE:表現種別:△テキスト△(ncrcontent),△機器種別:△機器不用△(ncrmedia),△キャリア種別:△冊子△(ncrcarrier)

項目名（画面項目名）	繰り返し	記述文法及び記述例
注記 (NOTE)	R (16)	1) 表現種別・機器種別・キャリア種別に関する注記の場合

* 「表現種別」、「機器種別」、「キャリア種別」の順にAを繰り返して記述する

詳しくは CM2.2.7F2.1
または付録6.1

28

4. 情報源のルール変更

● 優先情報源

図書の本タイトルの情報源が変わった

CM 2.2.1

これまで

2.2.1 ITFフィールドのデータ要素の情報源は「日本記録規則1997年版改訂版」(以下「NCR97R3」と略す)2.0.3.2(各要素の情報の「ア」タイトルと責任表示)の規定により、**巻頭紙(収録誌名を含む)、巻頭紙、巻頭紙**とする。

4.2.1 ITFフィールドのデータ要素の情報源は、タイトルページとする。規定の情報源は外から得た情報は、角括弧 [] に入れて記録する。(→ AACR2 2.002 (規定の情報源))
規定の情報源中に別のタイトルが規定されているときは、それに適切なコードを付けて、VIフィールドに記録する。

改訂後 基本

2.2.1E (データ要素の情報源)
ITFフィールドの情報はE1-E10に記述される。

E1 (本タイトルの情報源)
本タイトルの情報源は、タイトルページ(タイトルページ)とする。タイトルページ以外を優先情報源とする場合はE11からE13に記述する。規定の情報源が変更された場合は、角括弧 [] に入れて記録する。

情報源の中に優先されるものが規定された!

図書の本タイトルの情報源が変わった

CM 2.2.1

タイトルページでは難しいとき (和)

E1.1 (タイトルページ以外を優先情報源とする期間表等)
和資料については、タイトルページがなくても、その情報が不十分の場合は、次の優先順位で優先情報源を指定することができる。この場合は、必要に応じてタイトルページ以外のものを情報源とした番号、注記として記録する。

a) 巻頭紙
b) 巻頭紙
c) キャプション
d) ジャケット

E1.3 (タイトルページ以外の期間表等の優先情報源)
和資料にタイトル、ページ、タイトル・シート、タイトル・カード [又はその略称] がない場合は、タイトル・ページの状態で利用できるもの、以下の優先順位に従って、優先情報源として指定する。
この場合、その情報源をNOTEフィールドに記述する。(→ 2.2.7 NOTE)

a) 巻頭紙
b) 巻頭紙
c) キャプション
d) ジャケット

E1.3.1.2 (タイトルページ以外を優先情報源とする期間表等)
和資料にタイトル、ページ、タイトル・シート、タイトル・カード [又はその略称] がない場合は、次の優先順位で優先情報源を指定する。

a) 巻頭紙
b) 巻頭紙
c) キャプション
d) ジャケット

瀧脇有姫 “図書・雑誌” (コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会)
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_3_takiwaki.pdf (参照 2024-10-04)

29

4. 情報源のルール変更

● ジャケット等が情報源に含まれる

参照: Q&A C000004536 「コーディングマニュアルNCR2018対応版におけるPTBLの情報源について」

<https://community.nii.ac.jp/catqa/s/shousai?ncno=C000004536>

30

5. 新たに必須2になったもの

参照→ 拙作「新旧コーディングマニュアル 入力レベルの比較表」

図書(2章)全体比較 https://www.iaal.jp/_files/NCR2018/level1.pdf

2.2詳細比較 https://www.iaal.jp/_files/NCR2018/level2.pdf

新たに「必須2」になった主なもの

TR 並列タイトル／ED 並列版次／PUBF 役割表示コード／NOTE NCR2018注記

31

6. 新用語

●NCR2018ではRDAにならって用語が一新

参照: 日本図書館協会目録委員会「特に注意の必要な用語」(『全体条文案概要』抜粋)
https://www.ila.or.jp/Portals/0/data/iinkai/mokuroku/ncr_term_201704.pdf

NCR2018	NCR1987
アクセス・ポイント	標目
異形アクセス・ポイント	を見よ参照
エレメント	書誌的事項
順序表示	巻次・年月次
識別子	標準番号
識別要素	付記事項
識別の基盤	記述の基盤・記述の根拠
シリーズ	シリーズ, セットもの
タイトル・ページ	標題紙+標題紙裏
典拠形アクセス・ポイント	統一標目

「を見よ参照」は
「関連」

32

あとまわしでいいこと

- NCR2018の勉強
 - NCR2018が十分わかっていなくても10/31を迎えることは可能です。
 - 時間と気持ちに余裕のある時に勉強してください。
- オリジナル入力による書誌データ作成
 - ノーヒットの場合は仕方ありませんが、できるだけPREBOOK、参照データを活用する方向で
- (オリジナル入力等の場合)新コーディングマニュアルで「選択」の規定の記録
 - 10/31直後から記録しなくていいです。「必須2」だけおさえる。「選択」は負担にならない範囲でOK。

33

その他
最優先ではないけれど
知っておくとよいこと

34

雑誌は心配ご無用です

- 基本的に雑誌は全件、NIIで書誌データのチェックを行っているので、わかる範囲での対応で大丈夫
- 新規作成は少なく、当面は、遡及的適用の範囲が大きい(=現行ルールでOK)はず
- 新規作成時には「NCR注記を忘れない」「“第”とかは省略しない」に注意する。それ以外は、よく分からなくてもノープロブレム。

肝心なのは、NIIへの新規作成・修正報告をしっかりと提出すること!

35

著者名典拠(家族名)の新設

典拠

第5章 著者名典拠データ

- 5.1 個人名
 - 5.1.0.1 氏名(出生名以外)
 - 5.1.1.1 ID
 - 5.1.2.1 HDNG
 - 5.1.3.1 TYPE
 - 5.1.3.2 PLACE
 - 5.1.3.3 DATE
 - 5.1.4.1 SF
 - 5.1.4.2 SMC
 - 5.1.5.1 NGTE
- 5.2 家族名
 - 5.2.1.1 ID
 - 5.2.2.1 HDNG
 - 5.2.3.1 TYPE
 - 5.2.3.2 PLACE
 - 5.2.3.3 DATE
 - 5.2.4.1 SF
 - 5.2.4.2 SMC
 - 5.2.5.1 NGTE
- 5.3 団体名
 - 5.3.1.1 ID
 - 5.3.2.1 HDNG
 - 5.3.3.1 TYPE
 - 5.3.3.2 PLACE
 - 5.3.3.3 DATE
 - 5.3.4.1 SF
 - 5.3.4.2 SMC
 - 5.3.5.1 NGTE
- 5.4 会議名
 - 5.4.1.1 TYPE
 - 5.4.2.1 DATE

第6章 著作(統一書名)典拠データ

- 6.1.1 ID
- 6.1.2 MARCFLG
- 6.1.1 HDNG
- 6.2.1 SF
- 6.2.2 SMC
- 6.3.1 NGTE

第5章 著者名典拠データ

5.1 個人名

5.2 家族名(新設)

5.3 団体名

5.4 会議名 (NCR2018では団体名に含まれるが、これまでの慣例に従って立項)

第6章 著作(統一書名)典拠データ

家族名がALLに入る(=著者名典拠データを作る・リンク形成する)可能性は

ほとんどないため

気にしないでいいです

木下直 “典拠と関連” (コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会)
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_4_kinoshita.pdf (参照 2024-10-04)

36

著作典拠データ

著作(統一書名)典拠

基準0.1.1

NACSIS-CATでは統一書名典拠データセットを、著作の典拠データセットとし、名称も「著作典拠データセット」に変更する。

基準9.2.1 著作典拠データ

NACSIS-CATで著作のデータを作成する対象は、当面は以下の資料とする。

- a) 日本、中国等の古典籍
- b) 聖典
- c) 無著者名古典
- d) 音楽作品
- e) その他識別する必要があると判断した著作

木下直「典拠と関連」(コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会)
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_4_kinoshita.pdf

「著作の典拠コントロール」は、NCR2018の肝の一つではありますが、詳細未決でUSMARCTしか参照データセットがないし急がなくて良いのでは？

著作の取り扱い

- a) 日本、中国等の古典籍
- b) 聖典
- c) 無著者名古典
- d) 音楽作品
- e) その他識別する必要があると判断した著作

これまで作成されたデータへの対応
近現代の文学著作、動画など

これから取り込まれるデータへの対応
NDL:日本語訳のタイトルが複数存在する近現代の作品

これから作成するデータへの対応
取り扱いについて検討中

(参照 2024-10-04)

37

TRCMARCとTRCMARC由来のPREBOOK

新規追加コードへの対応③ SHKの「N」

新規追加コード③

件名の種類コード (SHK) の「N」

N 家族名(family name)

- NCR2018対応後は、件名の種類コード (SHK) の「N」は、TRCMARCを除く参照データセットに取り込まれます。

- 書誌作成時に家族名件名を追加する場合、SHKは「N」で登録してください。

新規追加コードへの対応① PUBF(2)

- NCR2018対応後は、出版等の役割表示 (PUBF) のコードは、TRCMARCを除く参照データセットに取り込まれます。

- 参照データセットの流用入力時や、PREBOOKへの所蔵データ登録時にPUBFのコードを入力されていた場合は、PUBFのコードは、そのままNACSIS-CATに登録してもよいです。

「必須2」ですが
「異なる目録規則の許容」により
修正無しでもOK

38

皆様からのご質問

39

NCR2018適用全般について

- 「異なる目録規則の許容」の範囲について再度確認したいです。当初はPREBOOKに書誌に対する許容だったと思いますが、参照データの流用時にも適用されることになるのでしょうか。具体的にはUSMARC等の書誌はRDAに拠っていますが、NCR注記の箇所等はそのままが良いとの説明でした。その根拠はどこに書いてあるのでしょうか。
- 「基準」「コーディングマニュアル」和洋が一つとなり、洋は対応できるのか？
- RDA、AACR2は完全に使わないということでしょうか？
- 書誌修正について 洋資料は略語を使わない記述になるので、既存の旧式の書誌に追加を行う場合は、新式の記述方式で追加を行う(つまり、書誌は旧式と新式の記述がミックスされた形になる)、ということによろしいでしょうか。

40

情報源について

- ジャケットにのみ記載のシリーズ名は資料自体の他の情報源に含まれますか？また、本タイトルに記述しなかったジャケットのみのタイトルは今まではVT:VTIにしておりますがVT:OHになるのでしょうか。
- 情報源の取り方について見解が割れる恐れがあると考えております。どの様に解釈するのが妥当なのかご意見頂きたい。

41

記述内容について①

- NCR注記(表現種別・機器種別・キャリア種別のNOTE注記)について、フォーマットチェックを行い、フォーマットが間違っていれば、エラーとなり、書誌をNACSISCATに登録できない、とのことだが、この点、かなり混乱を招きそうで、懸念しています。さらに、PUBF等のコード追加についても、図書館システムの対応が間に合うのかどうか、間に合わない場合、これから委員会(NII)はWebUIPの使用を求めているが、これについても大きく混乱しそうで、懸念しています。
- TRやVTに記入されている記号「:」「!」について。読みに記号が記入がされていたりなかったりします。マニュアルや規則にも特に記載がないように思います。2020以前は記号を読まない記入の仕方だったと思いますが、現在は基本は記入する方を優先ですか？以前と同様記入無しが優先ですか？TRで記入しなかった表示はVTIに入れることは理解しています。考え方としてどちらが優先なのかがあれば知りたいです。

42

記述内容について②

- 注記を記録する順序が現行コーディングマニュアルと変わりそうですが、NCR2018年対応版だけでは把握が難しいため、比較して教えていただけると嬉しいです。
- 製作と制作が紛らわしいです。前者は刊行物、後者は非刊行物の場合に使用することですが、これまでコード「m」で「私製」と入力していたもの（私家複製版）は「製作」となる、という理解で合っていますでしょうか。
- AACRでの例示“Printed for the CLA by the Morriss Print. Co.”のように、一見印刷者にみえるような場合は、役割表示コードをどうしたらよいか。そもそも最低限の必須事項がなんなのか一目でわかる例示がほしいです。

43

システム関連について

- 書誌作成で新たに入力が必要になる部分、変更点をわかりやすく教えていただきたい。また、ローカルシステムの改修が必要かどうかも心配。
- 図書館システムのメーカーにNCR2018への対応の可否を問い合わせているが回答なし。対応状況如何によっては、NIIで案内されているソフト(アプリ)の利用申請も必要となる。
- メーカーから、新コーディングマニュアル未対応バージョンのCAT接続ソフトで書誌レコードの更新等を行った場合、既に登録されている書誌レコードの一部の項目の値を空値で上書きする可能性がある、との連絡を受けました。具体的にどのフィールドに影響が及ぶのでしょうか。
- またILL接続ソフトによる相互協力手続きについて影響はあるでしょうか。

44

その他

- 職場(大学図書館)で具体的に何をすればよいのかわからない。
- そもそも、NCR2018にて採用された概念モデルなどについて理解が及んでいない。NCR旧版から2018で変更されたことが、どの程度NACSIS-CATの目録作業にも影響するのを知りたい。また、それについて学ぶことのできる教材やテキストなどがあれば教えて欲しい。
- その他の情報収集や準備しておくことはありますか。また、10/31から適用開始とのことですが、当館では新規に書誌を作成する際、すぐにでも対応しなければならなそうです。他館でもすぐに対応しなければならない所は多いのでしょうか。
- 「すぐにでも対応」や「しばらく様子見をする」、「対応は来年度になってから」等、今現在の主流の考え方や方針が知りたいです。
- 変更点の具体例を示していただけると理解しやすいです。
- 末端職員なので、利用者への案内に影響が及ぶのか知りたいです。
- わからないところもわからない感じです。10月末に運用が始まって、ついていけないのかとても不安です。最低限気を付けることだけでもご教示いただきたいです。
- 慣れない規則なので、各自で勉強したとしても誤った記述が多数なされると思います。自分が書いた記述に対し、自動的なチェック機能や、早期に訂正を促される機会があるのかどうかはこれまで以上に心配です。

45

最後に

46

今後の企画案

無料企画

- ◆「NCR2018対応コーディングマニュアルを端から端まで読んでみる」
 - コーディングマニュアルを通して読みながら解説らしきことをする企画です

興味のある方がいらっ
しゃればやります

有料研修 1回2500円（団体会員1500円、正会員1000円）

案ですが

- ◆ NACSIS-CATユーザのためのFRBR入門（1回2時間程度 演習あり）
 - 第1グループ4実体をすっきり理解したい人向け
- ◆ NCR2018をイチから学ぶ（全5回）
 - 司書課程の内容を現役図書館員向けにアレンジし5回にわけてじっくり学ぶ企画
 - 5回通しでも好みの回だけでも（多分5回まとめて申込みと割引になるかも）

Peatix (<https://peatix.com/group/11084913>)にて募集します

47

ご清聴ありがとうございました

後日アンケートのお願いをお送りさせていただきます
ご協力よろしくお願いします

IAAL 岡田智佳子

okada@iaal.jp

48